

2026年度ゼミ（演習1）要覧

担当者名	久保田 浩
演習テーマ	文化の中に「宗教」を読む、宗教の中に「文化」を読む
演習の内容	<p>「宗教」は社会の中で多様な姿をまとって現れると同時に、様々な機能も果たしています。その中の一つに、文化的・習俗的営みとして現れ、実践される「宗教」があります。本「演習1」では、「文化として現れてくる宗教」「宗教として現れてくる文化」をテーマに、「伝統的」といわれる文化現象だけではなく、ポップ/サブカルチャーも含め「宗教」と「文化」との関係について学んでいきます。「無宗教」であるとされることの多い日本社会をはじめ、世界各地における「宗教」と「文化」の実態を読み解き、その社会的・文化的機能を分析する訓練を行います。なお、「演習2」では「社会問題化する宗教」と「宗教と／の社会貢献」をテーマに学んでいきます。</p> <p>本演習では、グループごとに調査対象を選定し、自分たちの問いを立て、それに答えるために、資料や参考文献を収集し、自分たちの分析視点と調査方法を確立し、その上で、選定した対象を調査し、その成果を報告し、共同で議論します。また宗教研究の方法と理論に関する英文テキストを講読し、「宗教」に学問的にアプローチする方法についての理解も深めていきます。</p>
テキスト・参考書	ゼミ選択のご参考までに以下の文献を挙げておきます。学問的に宗教を研究するとはどのようなことか、コンパクトに読みやすくまとめられています。島菌進他編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年。島菌進『宗教学の名著30』ちくま新書、2008年。
成績評価の基準	複数回の発表（60%、トピック発表、調査発表等。レジュメも評価対象となる）、提出物（40%、調査報告書）
校外実習	実施予定（「演習2」履修年度）
校外実習を実施する場合、実習地・時期、個人負担額	ドイツ連邦共和国中南部（ミュンヘン、ハイデルベルク、フランクフルト・アム・マイン他。内容の概略は学部HPを参照してください）、2028年2月中・下旬（約2週間）、約40～45万円
選考方法	小論文と選考期間中の個別面接（面接日時等の詳細については、申込後に教員から連絡します）。
小論文 （テーマ、書式・枚数、提出期限・方法）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①本演習に関心を持った理由、②本演習の中で調査・研究してみたいトピックと、そのトピックに関心を抱くきっかけとなった出来事や経験（読書経験も含む）、の2点について具体的に記述してください。 ・ ①と②を併せて1200字以上1800字以内(A4で1頁から1頁半程度)。 ・ 申込書と一緒に、申込受付期間内に提出。
メールアドレス	frhkubot@k.meijigakuin.ac.jp
説明会・ オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下の「備考」欄を確認のこと。 ・ 説明会を3回開きます（各回12時45分開始、約40分）。前日までにメールで参加希望を伝えてください（前日までに参加希望の連絡をくださった方のみを対象とします）。第1回5月11日（月）、第2回5月14日（木）、第3回5月20日（水）。会場は、事前連絡をくださった方に通知します。 ・ 上の日程ではご都合のつかない方は、5月17日までに教員にメールで連絡してください。

履修済・履修中であることが望ましい授業	特になし
2027・2028年度に在外研究等で演習を開講しない可能性	なし
認定留学期間中(演習2・3開講学期中)の遠隔指導*	可 (留学期間が決まった後に遠隔指導の詳細につき要相談)
備考	本演習の履修に関心のある方は必ず、「説明会・オフィスアワー」欄に記載されている説明会に参加してください。事前にメールで、どの回の説明会に参加するかを必ず教員に伝えてください。 <u>メールでの事前連絡と説明会への参加がない場合には、申請を受け付けません。</u>

*「遠隔指導」については、「演習1」選考に関するガイダンス資料を確認のこと。